

# 朝日山だより



平成25年度 祝日の企画の散歩にて

## 社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・ケアホーム ひまわり・こすもす  
ヒューマンサポート タッチ・佐賀県発達障害者支援センター結  
〒841-0073

佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

FAX (0942) 84-3286

E-Mail : [asahiyaama@grace.ocn.ne.jp](mailto:asahiyaama@grace.ocn.ne.jp)

## 『共生社会の実現を目指して』

社会福祉法人 あさひ会 理事長 上尾 央子

この10年ほど、障害者に関わる法律や施策がめまぐるしく変化してきました。例えば、措置費が支援費に、平成18年には障害者自立支援法が成立。続いて障害者虐待防止法・障害者総合福祉法・障害者差別解消法等々。そして、この全ての基本理念は「共生社会の実現」であります。



これは、「重い障がいがあっても地域の方々と関わりながら人として尊重される当たり前の生き方が出来る様に」という私共法人あさひ会が平成9年創設時に掲げた理念と重なるところが多くあります。つまり、障害のある人も、ない人も出来る限り地域で当たり前に生活できるようにという想いです。

今年50歳になる知的障害の長男が小学校に入学する頃は、障害の為に義務教育すら受けられずとても辛い想いをしました。差別や虐待が目前に、しかも日常的に存在し、まわりもそれを許し、本人達も諦めさせられていたと思います。国の法律や施策の中にさえ優生保護法等差別を認めるものが堂々と存在していました。

それが、前述の様にこの10年大変化してきました。障害者の親の立場から見ると「共生社会の実現」という方向は、障害者の願いでもあると思います。

現在、私共法人は第1第2のケアホームを運営しています。最重度の人たちが地域の中で地域の方々と関わりながら、財源的不安を抱えつつも理想的な歩みを10年以上続けて来ました。散歩・買い物に出かけ声をかけられ当たり前に暮らし、少なくとも昔の日々の様な辛さは感じなくなりました。この様に、これからもこの街で構成員として認められながら穏やかな日々が続けられることを望みます。その為には、目の前に障害のある人がいることが必須で、これこそ共生社会の第一歩と思っています。

とにかく「共生社会の実現」が法律で定められたということが大きな支えであります。とはいえ、障害者の辛い暗い時代が長かっただけに、人々の心の奥底に「役に立たない者」という価値観が根強く浸透して、実現はそう生やさしいものではないのかもしれない。

ここで私達は改めて法人理念を再認識し、日々障害のある人たちと関わっている立場から、共生社会の必要性や素晴らしさ、感動したこと、学んだこと、全ての人の原点を教えてくれること等を外に向かって発信し続けねばならないと思っています。

「福祉は人である」「人が財産だ」とよく耳にします。

法人としては、スタッフが働きやすい職場、安心できる職場になる様、給与制度の検討・公平な評価・人材育成・能力開発のための研修増と活用等常に見直していきたいと思っています。その上で理念に基づく自分の仕事への誇りと自信を一人ひとりが持ってくれることを願います。

50年間、障害者の親として願ひ続けて来た共生社会の実現、一人の力ではどうにもならなかったであろうこの願ひが、法に守られ動き始めています。障害のある人たち、いや、全ての人たちにとって生きやすい温かい心の社会の実現のため、法人一体となって現場から発信していきたい思いです。



## 『新年度に向けて、いま思うこと』

朝日山学園 施設長 高取 正憲

平成 26 年度を迎え、4 月から障害者総合支援法におけるグループホーム、ケアホームの一元化、重度訪問介護の対象拡大、障害程度区分から障害支援区分への移行などが施行されます。

一元化されたグループホームについては全ての介護をグループホームで行う介護サービス包括型と委託契約した居宅介護事業所のホームヘルパーが介護を行う外部サービス利用型のどちらかを事業所が選択することとなります。

前号でも掲載しました障害者総合支援法の附帯決議にある「小規模入所施設」という言葉はまだ明確につかめていませんが、地域における居住支援の在り方については相談・体験の機会や場、緊急時の受け入れ・対応、専門性、地域の体制作り等の機能を整備していく手法として多機能拠点整備型や面的整備型というものが出てきました。

重度訪問介護の対象拡大により行動上著しい困難を有し、常時介護を要する知的障害または精神障害の方に対し、今までは外出時における移動中の介護や危険回避する為の援護を短時間しか利用できませんでした

が、今後は身体介護、家事援助、見守り、外出時の介護を総合的に提供でき、長時間の利用が可能になります。

障害程度区分から障害支援区分に移行し知的障害者、精神障害者の特性に応じ適切に判定されるようになるでしょう。

いずれも重い障害を有された方が安心して地域で生きていく為の良い方向であると思っています。

今年度から保護者と話し合いを進めているケアホームの新設とそれに伴う支援体制の確立を26年度も目指していきたいと思います。

先にもあげたように4月からグループホームとケアホームが一元化されることにより、今後、新設した場合にはグループホームという事業名となります。定員は10名以下となっています。しかし、利用者の状況を考えると11名以上の居住の場を確保する必要があります。今後、付帯決議の検討に注目していきたいと思います。

今後、利用者の高齢化、重度化に伴い設備面でも一般の家庭のようなトイレや浴室では無く、利用者が安心して使え、介助しやすい物が求められることとなります。更に利用者の障害特性に応じた音や光など環境に配慮した空間の確保も必要となります。

利用者のニーズと制度の変革とを勘案しつつ考えられるベストな選択をしていきたいと思っています。朝日山学園を支えて頂いております皆さまの益々のご指導ご協力をお願い致します。



## 『H氏の日中活動の取り組みについて』

朝日山学園担当 生活支援主任 菅 洋平  
ケアホーム担当 生活支援員 田中 大輔

H氏は視覚障害、知的障害を有する64歳の方です。現在、日中は朝日山学園、夜はケアホームを利用されています。週末土曜日には、自宅へ帰られています。その事をすごく楽しみにされている方です。しかし、月曜日の利用開始から、週末帰宅するまで一週間の見通しが立てにくい方でもあります。取り組み以前は、『いつ帰るんだろう』『早く帰りたいな』と、言う思いから一週間が始まり、不安から、中々気分がのらない日々がよくありました。その影響はケアホームでも見られ、夜間に睡眠がとれない事も多く、21時に布団に入ってから、朝方の4時頃まで

起きている事がよくありました。普段ケアホームでは、人とお話をすることが好きで、サポートに入るヘルパーさんに行事や家族の事を色々と話してくれています。その他にも、テレビやラジオが好きで自室で聴いて過ごしています。しかし、そういう状態になりますと、翌日は朝よりより眠気が強く、午前中から何も活動に入れずソファで眠ってしまう事も多々ありました。

そこで、スタッフ間で話し合いをかさねました。「H氏が安心して生活できる為には、どういう支援が必要か・・・」

今までスタッフは、H氏からの『いつ帰るの?』という問い掛けに、『土曜日に家に帰ります』と、答えていました。本氏の気持ちに対しての前向きな返答を行う事が目的で、『まだですよ』『今日じゃありませんよ』というH氏にとって否定的な表現ではなく、『土曜日に帰りましょう』という事をお伝えしてきました。しかし、H氏にとっては漠然とし過ぎており、一週間の朝日山学園、ケアホームでの生活を安心して過ごせる時間にはなっていない状況でもありました。そこで『どのように一週間の見通しを持ってもらうか』をポイントに安心した生活につながる取り組みを考えていきました。

分かりやすく一週間を伝える為に、具体的な興味ある活動を通して掴んでいってもらう事をねらいとし、H氏の週間計画を立案しました。内容として、月曜日は自宅より登園されます。自宅から来た日は気分がのらない日が多く見られます。そんな中でも楽しみにしているボランティアさんとのお話の時間を確保して、『さあ、お仕事しようかな』という気持ちになれる様に、お話しの日としました。火曜日は午後の時間にボランティアの方と一緒に楽しみのお菓子を作る日。水曜日は前日に作ったお菓子を食べる日。木曜日は楽しみにしている行事やイベントの向けて創作活動をする日。金曜日は本氏にとって最も理解しやすい『明日帰りますよ』と伝える日と決めました。取り組みを始め、『帰りたい』問い掛けに対して、一つひとつ活動を通して帰る流れを伝えていきました。お伝えと、活動を継続して行っていく事で徐々にではありますが見通しが出来始めている様子です。「お菓子つくって、お菓子食べて、(行事に向けた創作物)つくって、そしたら帰る日やろ・・・」と発言に



も変化が見られる様になりました。金曜日になると「明日ね、明日帰るよ」とH氏がスタッフに伝え、スタッフからも「明日帰りますよ」と伝えると、安心した表情を見せてくれる様になりました。

しかし、まだ、取り組み期間も浅く、H氏の不安が解消されたとは言えません。ケアホームでも睡眠状況は依然変化はなく、朝から眠気が見られる時もあります。

今回、「安心」という部分にポイントをあて、本氏の気持ちに添った取り組みの一部分をご紹介させていただきました。心から安心できる為には一部分だけの支援ではなく、幅広い視点での支援が必要になってきます。H氏自身が「分かった、良かった、安心した」と感じてもらえた時こそ、支援の通過点が生まれます。H氏の笑顔は、まわりの皆さんを明るくさせてくれます。これからも、分かりやすい環境で、前向きな生活ができる人生を送ってもらえる事を願います。

今回「一人ひとりの思いや感じ方を大切にしていける」事を、支援を通して改めて教えられました。その軸が逸れない様に、これからも、H氏に前向きな人生を送ってもらえる事を目指して皆で支えていきたいと思っています。

## ☆あさひやまりレー

### 『自閉症を有した方への取り組みを学んだ感想』

朝日山学園 生活支援員 宮崎 仁

私は、TEACCHプログラム研究会佐賀支部が企画する研修に年度当初より参加させて頂き、自閉症を有した方への支援、知識について学習してきました。今年、毎月の勉強会に継続して参加する事で「学習の継続の重要性」を痛感しました。勉強会に参加して暫くは「学んできた事を活かそう」「新たな気持ちで支援に取り組もう」と意気込んでいるのですが、やはり「慣れ」から、次の勉強会までには忘れていた事、抜け落ちている内容も多々ありました。勉強会の内容はどれも「理解していたつもり」の認識を改めさせてくれる、大変充実した内容でした。



もし、今年度、年間を通して勉強会に参加していなければ、私は無意識のうちに「自己流」な支援を行う支援員になってしまっていたのでは

ないかと思います。そして周囲の助言にも耳を傾けず、利用者にとって不利益な支援を行うスタッフになっていたかもしれません。他の事業所でも、誰でも起こり得ることかもしれませんが、一番恐ろしいのは、日々の業務に追われ支援の振り返りもせず、自己流で利用者の方と接してしまう事だと思います。幸い、朝日山学園では毎日の朝礼、終礼、定期的なミーティング、報告会と話し合える場が多く設けられています。しかし、その場に参加しても「最低限の知識」や「情報」を有してなければ、問題提起する事はおろか、問題に気付くことすら出来ないでいたかもしれません。勉強会では「こうだと思って支援していたけど、こういう見方も出来るかもしれない」「こうした方が、利用者にとって更に有意義かもしれない」と常に新たな発見、反省をさせられました。また、その経験を積めた事により、日々の日中、ケアホームでの支援は勿論の事、スタッフ間での話し合いや学習会、業務全般に対しても、前向きに、意欲的に取り掛かることが出来、充実した日々を送るといふ、良い経験もさせて頂きました。また、知識を習得し成長することは「自身の為のみならず利用者のため」にもなる事も痛感させられました。今後も経験、勉強を重ね、利用者のためになる支援が出来る朝日山学園の一員として努力を重ねたいと思います。

## ☆行事報告

### 『朝日山学園 クリスマス会報告』

朝日山学園 生活支援主任 松田 浩平

昨年の12月20日に朝日山学園ではクリスマス会を開催しました。

感謝の気持ちを込めて、日頃お世話になっている方々をお招きして、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

スタッフも早くから準備に取り掛かり、何度も話し合いをして例

年とは違った形式の新たなクリスマス会を計画しました。その中で・・・

①外部からゲストを招待する。

②例年のビンゴゲームから見て楽しめるゲームの企画。

という事を新しく今回盛り込んでみました。

①の外部からのゲストに、山の音楽家「シャナ」さんをお招きして、



演奏会を行っていただきました。聞くもの全てが心地良く聞こえて、利用者の方も、その他の参加者の方々もその音色に癒されていました。

②のゲームについては、今回は選択クイズ大会を実施しました。

内容として、

- スタッフとご招待させていただいたプロレスリング華☆激所属のプロレスラー超人KINGさんとの腕相撲対決
- 洗面器の中に顔を付けてどちらが長く息がもつか対決
- コーラ早飲み対決
- わさび入り小籠包はどちらだ？対決
- 受注の仕事どちらが早くできるか対決



を企画し、会場の方にどちらが勝つのか予想してもらいました。

反応もとても良く、みなさん笑顔で盛り上がりただけでとても良かったです。その後の利用者の方々の演奏会では日頃、音楽活動で練習してきた事を無事に本番でも披露する事が出来て、ホッとしているようにも見えました。

最後に、利用者の方々はサンタさんからプレゼントをもらい、ワクワクした気持ちでプレゼントを開ける様子は、楽しめて良かったな、とスタッフ全員安心しました。

これからもスタッフ全員で楽しんでもらえる企画、催しを考えて、皆さんが喜んでもらえるクリスマスを作り上げていきたいと思っています。



## ☆ボランティア募集しています

朝日山学園では日中利用者の皆さんが楽しんで過ごしてもらえる活動のお手伝いをしていただける方を募集しています。利用者の方との散歩や作業のお手伝いなどが主な活動です。よろしければ一度遊びに来てみませんか？



(TEL0942-84-3266 係 松田 まで)



## ◎寄付者ご芳名

平成25年8月～26年1月にご寄付頂いた皆さまです。いつも温かいご支援ありがとうございます。

青田 陽子 様	岩橋 勝政 様	内田 孝喜 様
太田 孝子 様	大田 重徳 様	山崎 勝義 様
大庭 ヒフミ 様	於保 定夫 様	鈴木 洋二 様
田中 洋子 様	床島 正志 様	
友永 豪 様	林 良子 様	氷室 美奈子 様
山本 立夫 様	毛利 トシ子 様	匿名 様
浅井簡易郵便局 様	佐賀カントリー倶楽部 様	

平成25年12月のクリスマス会にご寄付頂いた皆さまです。いつも温かいご支援ありがとうございます。

天本 剛 様	内田 孝喜 様	大坪 稔 様
岡 勝昭 様	岡村 國助 様	小川 裕美子 様
上尾 央子様	木下 真治 様	桑原美智子様
権藤 ツヤ子 様	権藤 美世子 様	齋藤 祝男 様
眞田 武彦 様	豊増 スミ子 様	光安 一磨 様
中島 辰馬 様	西久保 正子 様	野田 皓一 様
林 良子 様	橋本イツヨ様	原口 松枝 様
平井 朝子 様	廣重 新興 様	廣瀬 耕三郎 様
福島 一雄 様	福永 キヨコ 様	古澤 文雄 様
毛利 トシ子 様	山田 育子 様	匿名 様
あとりえ・まつもと	松本 知子 様	
医療法人野田内科 理事長	野田 芳隆 様	
社会福祉法人佐賀県共同募金会 様	原武登記測量事務所 様	

## ▣編集後記

平成26年がスタートして、早くも3カ月が経ちました。あまりの寒さに背筋が縮こまりそうな時期が懐かしくも思えます。今年の干支である午の様に、颯爽と一年が過ぎていくのでしょうか……。その中でも利用者の方と共に過ごし、支え、支えられる日々大切さを真摯に感じながら、一歩ずつ地に足をつけて前向きに進んでいきたいと思っています。

(橋口)